北中城村発 未来創造フォーラム
～ウェイアンドアイ創立10周年記念～

サスティナビリティで、人が集まる豊かなまちをつくろう!
サスティナビリティマインドセットと北中城村の未来をつなぐキックオフフォーラム

開催日時:2023年12月2日(土)　13:00～17:00
参加人数:29名
主催:株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役　馬橋和弘／粟野智子
後援:北中城村・一般社団法人 北中城村観光協会・EMウェルネスリゾート 暮らしの発酵 ライフスタイルリゾート

「ウェイアンドアイ創立10周年」の節目に、日本有数のスピリチュアリティが高い場所でもある沖縄県の北中城村(きたなかぐすくそん)において開催されたフォーラム。
経歴も多彩な幅広い年齢層の参加者が日本全国から集い、さらには地元の青年会のみなさんも加わり、意見交換を通じて、あらゆる気づきがもたらされました。

第１部　13:30～15:30

■オープニング講演
「人・組織・社会を幸せにするハピネス経営®」
株式会社ウェイアンドアイ　代表取締役　馬橋　和弘

当社は、「人と組織のハピネス最大化」を企業理念として2014年に創業し、その２年後に沖縄県内での活動がスタートしました。
昨今は、経営と幸せの関係が明確になり、幸せな社員が多い企業は業績成果が上がることが各種研究で証明されるようになりました。*1
当社企業理念は、2024年からは「社会」をも含めた「人・組織・社会のハピネス最大化」に進化させます。
「ハピネス経営®」とは、「パーパス(理念)の共鳴をもとに、人と組織が共に成長・進化し、サスティナビリティの実現に向けた価値を創造し続ける経営手法」のことです。ハピネス経営®のノウハウをもとにして、当社は沖縄県内の企業さまの
①パーパス経営、②ウェルビーイング経営、③サスティナビリティ経営、④価値創造経営 のご支援をさせていただいています。

*1:『ハーバードビジネスレビュー2012年5月号』「幸福の戦略」

＊「ハピネス経営®」は株式会社ウェイアンドアイの登録商標です。

■事例講演１
「平和で人と緑が輝く健康長寿と文化の村　北中城のこれから」
北中城村長　比嘉　孝則 氏

沖縄県北中城村は、沖縄本島中部に位置し、人口は約18,000人弱、約7,800世帯、面積は11.54㎢で本島では３番目に小さい村、日本一人口密度が高い村でもあります。
人口推計は横ばい状態を維持しながらも、年少人口や生産年齢人口は減少し、老年人口は増加する少子高齢化の人口構成が顕著に現れています。ただ、3期連続女性長寿日本一の村でもあり、毎年80歳以上の女性が「美寿(ミス)きたなかぐすく」に選出され、さまざまな行事で村の健康長寿のPR活動を担っています。「健幸長寿の村」宣言も行いました。
2022年に発表された「街の幸福度・住み続けたい街ランキング(九州・沖縄版)」では両項目ともに一位に選ばれています。*1
また、世界遺産に登録されている中城城跡(なかぐすくじょうあと)、国指定重要文化財の中村家住宅など文化財も多く、村内各地区では青年会活動も盛んで、エイサー演舞の伝統が受け継がれるなど、歴史文化豊かな村でもあります。産業としては、県内有数のアーサ養殖、また新たな特産物であるパッションフルーツ栽培への取り組みなどが行われています。
「平和で人と緑が輝く健康長寿と文化の村」という将来像を基本姿勢におき、人口が急増している米軍基地跡地であるライカム地区の新たなまちづくりをはじめ、その後も返還が続く他地区の跡地活用の構想も中部圏域の発展を見据えて進められています。ライカム地区は大規模災害時における防災拠点として、イオンモール沖縄ライカムでは生活物資の提供や駐車場の提供、中部徳洲会病院では傷病者の受け入れや避難所への巡回診療、スポーツクラブルネサンスや村民体育館、LNGサテライト施設では避難所の開設や衛生面のサポート、エネルギーの供給を行うなど、地域防災協定を村と諸施設が結びました。
交通の要衝であり、ポテンシャルの高いライカム地区の活用が今後ますます重要になります。
また、「農を活かした健康・福祉の里づくり」事業を推し進めるべく、村内のEM研究機構と推進事業連携協定を締結しました。

*1:大東建託株式会社による居住満足度調査

■事例講演２
「人と地球にやさしいサスティナブルホテル運営」

EMウェルネス 暮らしの発酵 ライススタイルリゾート　副総支配人　前川　幸輝 氏

　ホテルの建物の歴史を紐解いていくと、ホテルのSDGsへの取り組みがすぐにわかります。
元々、沖縄が米軍施政下にあった1970年に「沖縄ヒルトンホテル」によって建てられたのですが、のちに運営会社が変わっていく中で改築工事が中断してしまい、約13年もの間、廃墟状態が続いていました。それを、2003年にEM研究機構が取得し、改修工事に着手。「沖縄初のリゾートホテル」として建築され、まさに沖縄の文化財ともいえる建物を「壊さずに再生させる」というミッションのもとで工事が行われ、2005年に「コスタビスタ沖縄」として蘇りました。現在は「EMウェルネス 暮らしの発酵 ライフリゾート」とリブランドし、「発酵」をテーマに人と地球にやさしいサスティナブルなホテルとして、「病気にならない社会」づくりへの想いをもって運営しています。
　健康的な暮らしと地球環境の保全を実現するために、ホテルが取り組んでいることを紹介しましょう。まず、ホテルの衣食住には微生物技術（EM）が活用されています。微生物が人間にとってよい働き、つまり「発酵」へと導く手助けするのがEMです。館内清掃やリネン類の洗浄は合成洗剤ではなく自然由来のオリジナル発酵液（EM）を活用し、ケミカルフリーな空間で人と環境に負荷のかからないメンテナンスを行なっています。また、肌にも環境にもやさしい無添加せっけんを客室に設置しています。他にも、食品残渣を自社農場で発酵させ、堆肥として活用。微生物を活用した有機栽培ですべての野菜に有機JAS認証を取得しています。無料配布のプラスチック製品を削減し、トイレットペーパーなどの消耗品は使い切ってから交換します。ベジタリアンやヴィーガン、アレルギーの対応など食の多様性を追求しています。エコの知恵を自宅に持ち帰ることができるサスティナブルな情報も提供しています。
　沖縄県がSDGsの理念に基づいた世界的なウェルネスアイランドになることを願い、女性長寿日本一の北中城村にあるこのホテルから持続可能な社会の実現を目指しています。

第２部　14:10～16:30

■体感ワークショップ
「サスティナビリティマインドセットプログラム」

株式会社ウェイアンドアイ　代表取締役　粟野　智子（ファシリテーター）

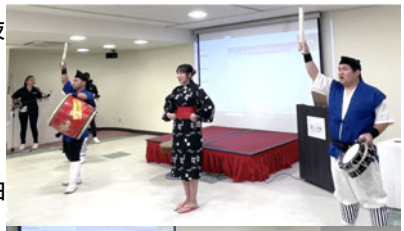
　「サスティナビリティマインドセットプログラム」とは、持続可能な社会や環境をつくるための前提となる価値観や考え方で、イザベル・リマノッチ（Isabel Rimanoczy）氏が開発しました。これからのまちづくりや観光づくりの最先端の考え方で、50カ国、150の大学で広まり、海外の教育やサスティナビリティに関する数々の賞を受賞しています。私は、イザベル氏と世界最大規模の経営学会で出会い、自身が研究するパーパス経営とのつながりからこのプログラムに共鳴し、日本にはまだ取り入れられていなかったため、現在、日本大使として活動しています。本日は導入部分を紹介し、今後のサスティナブルなまちづくりに活かせることを発見していただきたいと考えています。
　「サスティナビリティマインドセットモデル」は、「生態学的な世界観」「システムの視点」「感情的知性」「精神的知性」の４象限に分類されます。そしてさらに12の「サスティナビリティマインドセット原理原則」に分けられ、それぞれにワークショップが用意されていますが、今回は「生態学的な世界観」に該当する2つのワークショップを行いました。
　一つ目のワークショップでは、7テーマを話し合いましたが、沖縄の問題についても深い話し合いが行われました。例えば、「貧困」について話し合ったグループからは、「沖縄の子供の貧困の連鎖をどう断ち切っていくかが課題。一方で、世界的に見れば、貧困は減少。隠れた貧困があり、現状が見えなくなってきているともいえる」という現状報告が挙がりました。「平和」がテーマのグループからは、「身近な平和とは、一人ひとりが安心して学び、遊び、食事ができる社会。自分の気持ちが平和でゆとりがなければ、家庭、地域、日本、外国の平和も考えられないのではないか」「沖縄に住んでいると身近に平和を意識することが多い」。日頃から意識を持って、自分なりに調べ、話し合うプロセスの重要性も理解する場となりました。また、別のワークショップは、自分たちの行動を見直す話し合いが行われ、ペットボトルの廃棄、ファストファッションの買い替え、買いだめによるフードロス、アイドリングストップの未利用などが挙がりました。
　今回の気づきを一歩ずつ、具体的なアクションに結びつけていくことにより、持続可能性に貢献することができます。自分自身の持続不可能性の行動を自覚することがサスティナビリティマインドセットの第一歩なのです。

■マインドフルネス　株式会社ウェイアンドアイ　代表取締役　粟野　智子／クリスタルボール　クリスタリスト　寺田　真理子 氏

　「12のサスティナビリティマインドセット原理原則」のひとつである「マインドフルネス」を参加者に体感してもらいました。沖縄はもともとスピリチュアリティが高い土地です。先祖を大切にし、自然を愛する気持ちにあふれた沖縄でこのプログラムを開催したいと考えていました。
　マインドフルネスとは今ここに集中し、満たされている状態のことで、現代人に失われつつある「感じる力」が高まります。マインドフルネスは、サステナビリティマインドセットを高めることに大変有効です。感じる力を高めるプログラムとして、α波を促すクリスタルボールと共に体感しました。

エンディング　16:30～17:00

■エイサー&カチャーシー
北中城村　島袋青年会



　「エイサー」とは、旧盆の夜に地域を練り歩きながら祖先をあの世へ送り出す念仏踊りのことで各地域の青年会によってそれぞれ独自の型があり、伝統芸能として受け継がれています。現在は旧盆以外にも、イベントなどで一年を通じて披露され、このフォーラムでも勇壮に踊っていただきました
　最後に三線の調べに合わせて、参加者も自然と踊り出す「カチャーシー」で賑やかに締めくくりました。

＊ご参加の皆さん、ありがとうございました＊

【ご参加者の気づき】

・様々な仕事や考え方の人と出会うこと、意見を出し合うことで、改めて気づくこと、初めて知ることがたくさんあると感じました
・初めて、このようなフォーラムに参加して、グループの方が助けてくださり、とても良い内容でした。これからに活かしていきたいと思います。
・良い生活や、自分を大切にする生活が幸せを生み、幸せが寿命やパフォーマンスに良い影響を生み出すと感じました。
・経営の視点から社員の幸せを第一に考えていますが、しっかりと文字に起こしてみようかなと思いました。
・北中城村のお話で課題や取り組みをお聞きし、応援したくなりました。自分の住んでいる街のこともっと知りたいと思いました。EMの話を聞きし、自分の今できるところで持続可能な取り組みをしていきます。
・沖縄の持つ独特の状況と新たな取り組みが素晴らしいと感じました。村のサスティナビリティを考え、連携していくことの重要性がわかりました。
・自分たちの地元をもっともっと元気にしたいと思いました。
・自分の住んでいるまちづくりに参加してみたくなりました
・EMホテルの取り組みの中でも、特に日々の暮らしの中で実践できるものを伝えるという事が印象に残りました。受け取った側がそこから個人の暮らしのあり方、そしてこれから先の生き方を考えるきっかけになりそうだと感じてすばらしいなと思いました。
・サスティナビリティについてついてキーワードは知っていましたが、全く理解していませんでした。日常の中で考える機会がない分野かなと思いました。広い視野で長期的に行動を考えることがサスティナビリティにつながることだと理解しました。まず自分が何から始めるのか、どうしたらサスティナブルなことに気がつくのかもう一度考えてみようと思いました。地域によって課題等の違いや考え方の違いがあると感じました。
・自分中心の主観的な視点ではなく、世界的な視点から捉えることで見えてくることが多いことに気づきました。すべての問題がつながっていて、総合的に関連を考えるようになりました。

Way&I
株式会社ウェイアンドアイ
URL. www.wayandi.co.jp/
MAIL.info@wayandi.co.jp